

菜の花プロジェクト 4 年目の始動！

10月16日ヒマワリ、稲の刈り取り

夏から秋にかけて、畑の 3 分の 2 がヒマワリ畑、残りの 3 分の 1 を田んぼにしていますが、同時に刈り取りを行いました。刈り取り自体は、手刈りであっても、あっという間に終わってしまいましたが、特に稲の場合は束ねるのに結構時間がかかり、運び出したのは夕方近く。刈り取ったヒマワリとおコメは磯城野高校の屋外の屋根のある場所ですばらく乾燥させ、ヒマワリの種は搾油に出し、



ヒマワリの刈り取り

おコメ

はヤギや鶏など高校にいる動物たちのえさに。茎などもえさか、発酵させてたい肥として利用されます。おコメを食べた鶏の生む卵の黄身は白っ

飼料米の刈り取り



ぽいんだとか。ちなみに今年はお隣など周辺の農地も飼料米を栽培されていたそうです。

10月23日菜の花の種まき

飼料米あるいは米粉用のコメをつくると 1 反当り 8 万円給付される個別所得保障制度を利用したものだそうで、収穫後の耕運でお世話になっている方からは来年以降の制度利用をすすめられています。菜種も給付額は低いものの、同制度の対象作物となっていて、そうなると飼料米と菜種でダブル給付も可能か？は興味のあるところ。政権交代後の新制度であり、定着する制度なのか未知数であることや、農地をお借りしている地主さんとの話し合いが必要であるなど、実現できるかどうかは不透明ですが、肥料代、運搬代などの確保や地域の人たちとつながるチャンスとして関係者と話し合いながら検討していきたいと思っています。

菜の花の種まき



刈り取りの 1 週間後には、磯城野高校生、青少年自立援助センターブルーム、コープ自然派奈良「チームなっぴー」・・・と刈り取りと同様のメンバーで菜の花の種を直播していきました。ゆっくりと土作りを・・・との思いはありましたが、日程的に厳しいこともあり、まだ土が固く、畝たても十分ではないままなのは気がかりですが、今年他県の菜の花仲間の畑とともに、品種をキザキノナタネから、より搾油量が多いとされるナナシキブに変えたのは楽しみなところでした。

ならコープ環境保全活動助成報告会

10月18日「あすなら苑」



巨樹にスポットライトを当て、ガイドブックを発行した「巨樹に親しむ会」や天理市に環境マニフェストを提言するなど行政との先進的な協働活動をしている「環境市民ネットワーク天理」など、県内にこんなに多くの中身の濃い実践グループが存在するのか、と目を見張るばかりでした。報告の後の意見交換では、それらのせつかくのすばらしい活動について発信する機会にあまり恵まれないうとの共通点が浮かび上がり、そのような活動の紹介と交流の場としても、アースデイが存在し続ける意味があるのでは、との思いを新にしました。

また、会場となった老人福祉施設「あすなら苑」の隣には、ならコープが保育園を建設中とか。「あすなら苑」の職員の子どものための保育園を、というのがきっかけのことですが、お年寄りの施設と保育園が隣り合うというのは、少子高齢化が深刻な中、ホットな話題。しかも「あすなら苑」同様、サークルおてんとさんにより「太陽光市民共同発電所」の設置も計画されています。いつもお年寄りとおふれあい、さんさんと降り注ぐ、まさに太陽の恵みで暮らす子どもたち。福祉と環境の溶け合う取り組みは、県内の先進モデル事例として要注目です。

※「あすなら苑」場所：大和郡山市宮堂町 160-7

昨年引き続き、今年の「アースデイなら South」も、ならコープの「環境保全活動助成」を受けています。助成を受けた各団体の活動報告と意見交換会があり、参加しました。冒頭、ならコープ理事長より「県内では、アースデイの開催が継続されていることは喜ばしいこと」との言葉がありました。仲川順子さん(奈良 NPO センター)の「ソーシャルビジネス」についての講演の後、各団体からの活動紹介・報告が行われましたが、奈良公園などの

「まほろばふるさと雇用再生特別対策事業」はじめます

人権研修の教材等開発事業 一人の多様性を活用するためのプログラムづくり

奈良県は、雇用機会を創出することを目的に、地域経済の活性化につながるなど、広く県民のニーズに合うような提案事業を公募し、今年度当初予算で採択された多くの事業者が4月から既に委託事業を開始していますが、10月の補正予算分でほっとねっとの提案事業も採択され、事業を行えることになりました。同時期に採択されたのは11事業で、そのうち9事業がNPOの実施するものです。

たとえ有償であれ、どちらかというボランティアの領域であったNPO活動ですが、ここで社会保険などを整備して人を雇用する、というスタートラインにたったといえます。今回採択された事業は、バリアフリー観光案内所設置作業、新たなツールを用いた観光魅力工向上事業、障害者地域就労モデル事業、園芸福祉による介護福祉事業、DV被害者自立支援ステップハウス設置事業、農林業を通じた自立支援事業、自然学習型環境教育推進事業、地域資源活用と来訪者との交流によるまちづくり事業、NPO活動強化支援事業、地域情報ステーション運営事業・・・と地域課題に合った魅力的なものばかり。その中でほっとねっとは「人権研修の教材等開発事業」として、人の多様性を尊重するだけでなく、活用することで社会が活性化することを目的として、多様性活用の啓発ビラと研修プログラムを家庭・地域編と企業編の2種類作成する、というのが主な内容です。

この事業の中で、人権研修の内容を2006年度の県との協働事業で行ったワークショップや、昨年開催したCSR学習会の蓄積に加え、多くの知恵を結集してより膨らませていけたら、と思います。また、この11月からの新しい国際規格「ISO26000」(社会的責任企画)の中にうたわれている持続可能な社会をつくるための2大課題・・・気候変動に対応する「環境配慮型社会」と人口変動に対応する「人的多様性配慮型社会」のうちの後者を意識しての試みです。CSRといえば環境問題とともに、人権問題にも取り組んでもらえる、大きな節目を迎えた今、このチャンスを生かして人権課題のさまざまな場面で使えるものを、さまざまな意見をもらいながらつくっていきたいと思っていますので、ご協力よろしくお願ひします。

(緊急問題提起)

「朝鮮学校授業料無償化見直し」を問う

東大阪朝鮮中級学校を見学して

本年4月時点で、高等学校の授業料無償化から朝鮮学校が除外され、対象とするか否かが継続して議論されている。その問題の現状を今号の記事にと考えていた矢先、北朝鮮による砲撃事件が起こった。もしやと思っていると、案の定、翌日の夕刊(読売)の1面に「朝鮮学校無償化見直しも」との見出しで記事が掲載された。サブタイトルには「官房長官『手続き一時停止』」とあり、高木文部科学相は、この事態によって、高校授業料の実質無償化の対象に朝鮮学校を含める方針を見直す可能性に言及したという。彼は、この問題を外交上の配慮で判断すべきではなく、教育上の観点から配慮すべきだ、との政府見解を示しながらも、今回の事態は正常な教育、平和を揺るがす根底にかかわる、と述べた。仙谷官房長官も記者会見で「(朝鮮学校からの申請審査の)手続きを一旦停止する方向だ」と語ったという。

今年の4月2日夕刻、近鉄八木駅前では私たちは桜井市在住のAさんを中心に、授業料無償化からの朝鮮学校除外に反対して市民の集いを開催した。予想される妨害行動による混乱を避けるため、知人を通じて文書を回しただけの告知となったが、70名もの人々がこの集会に参加し、京都でいち早く行動を起こした詩人河津聖恵さんも駆けつけ、アピールをしてくれた。

そして10月のある土曜日、私たちは午後から東大阪朝鮮中級学校の運動会を見学に行った。校庭には、朝鮮の旗とともに、ワンコリアの旗がひらめいていた。競技する中学生たちは皆真剣で、競技結果に一喜一憂する。生徒たちの自主運営が重んじられ、生徒と先生方の関係は実にフレンドリーだ。実は、個人的にはもっと統制の効いた「中央集権的」イメージを持っていたが、それは見事に覆された。競技を終えて、生徒、先生、応援の家族たち、全員が行う整理体操を見ていて、日本の中学校の方が余程軍隊的だと感じた。考えてみれば解ることだが、差別に喘ぐ在日の家族たちが、民族の文化を継承させたいと、苦しい家計の中から通わせているのだ。部落問題に例えるなら、この学校の先生方は同和教育推進教員のような苦勞をされているに違いない。運動会でそのことを知った。

韓国併合100年に、何故あえて「除外」なのか。「過去の反省」とは真逆の判断である「無償化見直し」に対して、何らかの対応が必要だと感じている。
(伊藤 満)

希望者に進呈！(先着2名)

「障害者差別事例集」(A5判 30ページ)



10月23日にならまちセンターで開催された、自立生活センター奈良サポート24主催の「奈良県に障害者差別禁止条例をつくらう！公開セミナー」の会場でハンドブックを購入しました。障害者の差別について直接差別、間接差別、合理的配慮に欠く差別と区分してわかりやすく解説されています。購入した3冊のうち、2冊をほっとねっとの事務所に取りに来てくれる希望者に進呈します。

イエローレシートキャンペーン

10月11日、樫原イオンモールアルルで、2010年度前期分のイエローカード贈呈式がありました。ほっとねっとは、3300円分のカードをいただきました。半年の間に33万円分のレシートを入れていただいたということで、ご協力いただいた皆様に感謝いたします。



レジの近くに毎月十一日にレシート投函ボックスが設置されます。引き続きよろしく！

野次馬情報 掲示板

☆連続10回連続公演

ひとり芝居「メビウスの輪の外へ」第1回上演

出演:西元完代

脚本:吉田智弥

日時:12月1日(水)13:00開場、13:30開演

会場:橿原文化会館

参加費:無料

問合せ:(財)奈良人権・部落解放研究所(ヒューライツステーション)

TEL0742-62-5179、Email: nakama@pearl.ocn.ne.jp

HP <http://www4.ocn.ne.jp/~hu-sta/>

☆性と生を考える会ぶらっとサロン ぶかぶか 12月

「みんなでネタをもちより忘年会」

日時:12月2日(木)18:30~20:45

場所:奈良市生涯学習センター3階学習室1

参加費:今回は無料。差し入れ歓迎

※新聞切り抜き、本や漫画、絵や音楽、イベントのチラシなど持ち寄り、初参加歓迎。

お菓子と飲み物あり。

主催:性と生を考える会

<http://nara.cool.ne.jp/say-to-say/>

問合せ:中田ひとみ

Email: nakatah@kih.biglobe.ne.jp

☆講座「家族や子ども・クライアントが

『絶対よくなる』サポートの方法」

日時:12月4日(土)13:30~16:00(受付13:00~)

定員:35名(先着順)

場所:大阪市立生涯学習センター 難波市民学習センター(OCATビル4階、JR難波駅すぐ)

<http://www.osakademanabu.com/namba/>

講師:向後善之さん(心理カウンセラー、アライアント国際大学大学院准教授)

受講料 4800円(1名参加) 9000円(2名で参加)

主催:メンタルバランス・奈良ダルク

申込・問合せ:メンタルバランス(福本) Email: mental-b@live.jp、

TEL080-3834-2177

名前・住所・連絡先を連絡後、下記への振込確認をもち、申込受付

振込先:ゆうちょ銀行 メンタルバランスカウンセリングルーム21

☆イコリティ結成10周年のつどい

日時:12月11日(土)13:30-16:00

場所:奈良県中小企業会館 4階(近鉄奈良駅1番出口徒歩3分)

内容:ペープサート(デートDV)

講演「男女平等になったのかな?」~男女共同参画社会基本法から10

年~(講師・福島みずほさん)

定員:70人(申込不要)

参加費:無料

主催・問合せ:イコリティ(男女共同参画をすすめる会)090-3659-0064

☆講座「スウェーデンの性的少数者 LGBT の現状と政府の戦略」

日時:12月16日(木)18:00-20:00(17:30開場)

場所:スウェーデン大使館1階オーディトリウム(港区六本木1-10-3)

講師:田嶋徳弘(毎日新聞代表室 Mainichi RT 編集部 記者兼編集委員)

参加費:スウェーデン社会研究所会員、スウェーデン語講座受講生は無料

非会員 1000円、学生 500円(当日受付にて)

申込:Email:sweden@tkm.att.ne.jp TEL03-5661-6035、FAX03-3655-1596

主催:(社)スウェーデン社会研究所

<http://www.sweden-jiss.com>

☆シンポジウム バックラッシュ時代の平和構築とジェンダー —「女性国際戦犯法廷」10年を迎えて—

日時:12月19日(日)10:20~18:00(開場10:00)

場所:立命館大学創思館1階講義室カンファレンスルーム

I部 戦時性暴力/日常の性暴力(10:30~12:30)

「沖縄からの報告」「南京ワークショップの報告」

「性暴力防止の立法化に向けて」

II部 歴史と言説—「慰安婦」問題と関連して(13:30~15:30)

『慰安婦』・公娼の境界と帝国の企み」

「日本軍『慰安婦』と米軍基地売春婦—植民地遺産と韓国のポストコロニアルの現在」

「日本政府に対する韓国の慰安婦生還者の法的請求はナショナリスティックなアクションか?—法的責任、道徳的責任、トランスナショナリズム」

『慰安婦』問題と日本の民主化」

III部 全体討論(16:00~18:00)

主催・問合せ:立命館大学国際言語文化研究所ジェンダー研究会 Email:genbun@st.ritsumei.ac.jp

※事前申込・参加費不要